

Insight[®]

Science of Success

特集

思いを形にする方法

— 松田秀夫

— のざきささいこ



座右の銘
なぎら 健吉 氏

オリジナル・ブランドの人生を創ろう

思い描く人生を送りたい、そう思う人は多いことだろう。
人生は、誰もが求める、最も大きな「カタチにする思い」と言えるかもしれない。
自分自身の人生をデザインすることについて、数々の職業を渡り歩き、
なりたい自分を創り上げてこられた、のぎきいこ氏は語る。

自分らしく生きるための「自立・自律」

わたしの両親は、わたしが幼少時、父の事業の失敗と同時に離婚しました。母は料理上手で裁縫上手。家事を完璧にこなしながら、父の事業サポートもする良妻賢母。母は私の誇りでした。しかし、離婚後の母は、

十分な能力を持ち合わせながらも、自立出来なかったために、経済的基盤を持てず、また精神的自律も出来なかったために、自分自身で自分の人生の目標を見出せなかったのです。事業に失敗した父からの仕送りは途絶え、貧乏暮らしのなかで愚痴をこぼしながら泣き暮らしていた母は、どんどん壊れていきました。悲しみと不安の思いで壊れていく

母をみながら育ったわたしは、「人生どこでどうなるか分からない。そのためにも一生働き続けることが出来る職につき、経済力を身につけよう。愚痴の出ない人生のために後悔のない自分らしい生き方をしよう!」と人生最初の哲学を持ったのです。自分らしい生き方をするうえで、いかに「自立・自律」が大切であるかが、痛みに耐えながら掘り続ける

刺青のように心に刻み込まれていった十代の真ん中でした。

なりたい自分になるための生き方のデザイン

生き方は自由自在です。自由を縦糸に、浪漫と行動力を横糸に、わたしは「なりたい自分」を目指し、人生をデザインしてきました。

◆デザインその1

グランドホステスからナレーター・声優へ

わたしの最初の職業は、航空会社のグランドホステスでした。笑顔がセールスポイントのわたしにとってサービスマンは適職だったようです。上司や先輩たちにも可愛がってもらえましたし、お給料も満足でした。わたしの人生これで決まり! フレッシュマン時代はそう確信して

そのひとつは、男女差のある組織の縦割り構造の中で、五年先の人生に夢が描けなかったことでした。雇用均等法がまだ確立されていなかった当時、組織のなかでの男女差は結構厳しいものでした。ましてや、結婚、出産という人生イベントをシュミレーションすると、組織のなかで一生働いていくことに限界を感じていたのです。当時は育児と仕事の両立が今以上に難しい時代でしたからね。

ふたつめは組織の圧力と矛盾のなかで、唯々諸々と機械的、歯車の仕事に向かい合い、生活の保障と引き換えに精神が萎えてしまう青春の日々に危機感を覚えていたのです。そこで自分プロデュースで一生働

のぎき いこ

株式会社サムシング代表取締役

全日空グランドホステスより、声優、ナレーターへと転職。300社以上のCM、番組ナレーション、アニメ、洋画の吹き替えなど、長年声の世界に携わり、転職を天職とする。

30代で予備校通いまでして、おばさん大学生となり、大学卒業後、無一文から事業を立ち上げ、独自で資産とキャリアを創りあげる。

現在はナレーションの録音制作会社として、都心の高層ビルオフィスに自社スタジオを構え、皆様お馴染み「おふろが沸きました」の音声ガイド、カーナビ他、大手企業200社以上との取引実績がある。

音声合成のバイオニア的存在として、メディアからも時々取材を受ける。

企業、学校、官公庁などへ、話し方、ボイストレーニング、ナレーション、朗読などの研修講演活動も展開中。

都内に9件の事業用不動産物件を運営する事業家でもある。

のぎきいこ オフィシャルサイト <http://nozakikiiko.com>

株式会社サムシングホームページ <http://www.some-thing.co.jp>



ける、自分の人生を賭けるにふさわしい仕事に切り替えようと、ナレーター、声優へと転職したのです。

ナレーター、声優というところ、今でこそ華やかな職業のひとつですが、当時は裏方仕事の位置づけでした。世間的には航空会社のグランドホステスのほうが、説得力がありました。ましてや会社を辞めると言えば、寿退社が当たり前の時代です。「結婚しないで、安全・確実・有利の会社を辞めてどうするの!」周囲は大反対でしたが、あの時、人生のチャンネルを変える決断ができたからこそ今のわたしがいます。

ナレーター、声優の仕事を選んだのは、一生働いていくのなら、好きな仕事に就こうと考えたからです。グランドホステスの仕事も好きでしたが、人生デザインにおいて、自分でライフプランニングできる仕事ではなかったことが障害でした。そ

れでも五年近く務めていたのですが、目先のぬくぬくした心地よい生活にいつまでもひたつていてはいけなとの決断。二十代の真ん中でした。

失敗はやり直しても、後悔はやり直せない



新しく改善するには、時に今あるものを捨てる勇氣が必要になります。

わたしの場合もそうでした。毎月の定期収入を捨てて、先行き不透明でその日暮らしのフリーターへの転身です。養成所に通う傍ら、デパートの屋上で開催される子供ショーのお姉さんMCとなり、ぬいぐるみの怪獣と戦ったり、クラブでのMC、企業イベントのナレーターコンパニオン等アルバイトに励む毎日でした。ドサ周りの地方巡業先で、観客の少ないステージに立っていると(一

体わたしはこんなところで何をしていいのかしら)と不安と焦燥感で一杯になったものです。

けれど、人生は求めているものを与えたりと与えてくれるほど簡単ではありません。ですから、与えてくれるのを、ただじっと待つのではなく、与えてくれないのを愚痴ったり、ひがんだりするのではなく、自分から動いてみよう、自分で自分を奮い立たせ、苦手の営業回りを始めたのです。

「おはようございます! 将来有望のナレーターです。よろしくお願いします!」

元氣よく、最高級の笑顔で挨拶回りを毎日展開させたのです。

半年後アニメオーディションのチャンスに巡りあい、なんと、新人ながらも準主役に抜擢されました。わたしの代表作品『ドンチャック物語』のララちゃん役です。ためこん

だパワーストックで大きくジャンプできた、はじめの一步でした。

今の自分、今の生き方を、新しい自分、新しい生き方に変えるには、チェンジが必要です。そしてチェンジとチャレンジはセットなのです。

だから今の自分を変えたい人は、失敗を恐れずに、どんどんチャレンジしましょう。失敗を恐れてチャレンジせず、「あああの時なぜやらなかったの!」と、あとで悔やむほうが大きな失敗です。

こうしてわたしは、沢山のチャレンジに挑みながら数多くのCM、番組ナレーション、アニメ、洋画の吹き替えなどのチャンスを頂き、現在まで声の仕事に携わっております。まさに転職が天職になったのです。

☆デザインその2

三十代のおばはん大学生

三十代では、ナレーター、声優の

仕事を続けながら予備校通いをして大学進学にもチャレンジしました。

過酷な受験戦争から解放された若い学生たちは、大学生になると待ってましたとばかりに遊び始めます。

一方わたしは、社会経験を積んできたなかで沢山の不条理や疑問を抱え、人生の回答を求めて大学へ入ったので勉強が面白くて仕方がない。勉強したい時が勉強時の句とばかりに、乾いたスポンジが一気に水を吸い込むような勢いで勉強を楽しみました。

真に分かるという事は、きちんと言葉で認識出来ること。文学、哲学を通して、気付きの言葉、感動の言葉、珠玉の言葉との出会いがありました。

勉強という遊びに夢中だった四年間は、かけがえのない人生の充電期でした。

☆デザインその3

ナレーター・声優から

会社経営者へ

そして大学卒業後、ひとりの事業家として更なる展開をめざし、大きな夢を掲げて、小さな会社を立ち上げたのです。

お金もコネも、会社経営のノウハウもなく、あるのはただひとつ。夢への熱い思いだけです。ところがこの熱い思いが大爆発したのです。あとはもう、バイタリイティあふれる行動力とことん真剣勝負です。

＜マイナスの出会いを縁にしてチャンスをつかんだ例＞

音声合成のバイオニア的存在として大手企業様からたくさんのナレーション録音のご依頼を頂けるようになったきっかけは、かれこれ二十数年前、O社のクレーム電話からでした。わたしはすぐさまO社へ駆けつけ、誠心誠意謝罪し、出来る限りの



「着信御礼!ケータイ大喜利」のセットで

サービス対応に努力しました。それが功を奏して逆に信頼をいただけるようになり、後に合

成音声業務の提携に至ったのです。

その後、合
成音声は爆発的なヒットをみせ、お陰でかなりの収益アップにつながりました。

ATM、カーナビ、各企業のインフォメーションガイダンス、家電商品に組み込まれている音声ガイダンス等々。嬉しいことにわたしの仕事は世の中のアちこちで耳にすることが出来ます。

例えば皆さんがよくご存知なのが「お風呂がわきました」。ちなみに、

この音声ガイダンスではNHK総合テレビの「着信御礼!ケータイ大喜利」に声のゲストとして出演させていただきました。

一本のクレーム電話から始まった、素晴らしいビジネスチャンスでした。

「ONE MORE スピリット」

CANDOS スピリットで

チャンスをつかんだ例

P社から、業界初のDVDのカーナビを出したいが、二ヶ月で制作できずかとの問い合わせを受けたのは、十数年前のことです。

北は北海道から、南は沖縄まで、全国の交差点名を読み上げるのにたった二ヶ月! 物理的に無理です。ここはやはり丁寧にお断りするべきでしょうと思いきや、なんとわたしは「かしこまりました。お任せください」と、満面の笑顔で答えてしまったのです。

さあ、大変です! わたしは早速

自社スタジオを造り、十人チーム編成で早朝から深夜まで早巻きモードのフル回転で動き出しました。そうしてオハヨウからオヤスマナサイまで仕事に追われ、帰宅出来るのは週末だけの重労働。外食がほとんどでしたので、栄養不足でストレス太り。おまけに鉄板のように凝り固まった慢性肩こり、眼精疲労と過労死目指して一直線の日々。「のささきいこのコピーが欲しい!」の心境でした。

そして約束どおり二ヶ月後に無事納品。このP社との業績が評判となり、その後の仕事にも大きな成果をもたらしました。チャンスの女神様がちやんとわたしの頑張りぶりをみてくれたのですね。

仕事はお金以上のものをたくさん与えてくれるのですが、P社との仕事で「やれば出来る!」の自信を得ることができました。これは決してお金では買えない大切な財産です。

そしてもうひとつ、仕事で得られた財産。それはチームの力です。P社との取引は十数年ですが、スタート当初からの協力スタッフがひとりも抜けておりません。同じ目標に向けて共に頑張った仲間同士の信頼関係は、かけがえのない財産です。特別優れた能力があったわけでもなく、特別ラッキーだったわけでもありません。自分から挑戦すること、行動することで、ラッキーチャンスを引き寄せたのだと思います。そうして四苦八苦の手探りで、ひとつひとつオリジナルブランドのキャリアを創ってきたのです。お陰様で数の数に比例して、仕事の実績と共に経済的基盤も確立出来ました。天国の母に心からの感謝です。わたしが自立創造の人生を成し遂げられたのは、すべて反面教師の母からの学びからです。

元恋人にこんなことを言われたこ

とがあります。「いつもチャレンジ精神で頑張っている生き方が素敵だ。僕は一生君のファンでいたい」。最高のラブメッセージです。一カラットのダイヤモンドのプレゼントよりも嬉しかった! 残念ですがその恋人は亡くなってしまいました。彼の遺言として、生きる姿勢の礎としております。

人生まるごと真剣な遊び



「自分らしく生きるために」というテーマでの講演で、女子生徒からこんな質問をもらったことがあります。

「きいこ先生は、どうしてそんなに頑張れたのですか?」

「生きることが好きだからです」

体裁とか、カッコ良い理屈付けなどあれこれ考えることなく、生まれ

たての子供のようにあつけらかんと素直に、間髪を容れずにポンと口から出た答えでした。そんな自分に微笑しながら、ああ私は、本当に生きることが好きなのだと思いました。

わたしの「生きる」とは、季節に流されながら暮らしをなぞる生き方でなく、自分を生きる人生です。自分の人生を賭けて本気で遊ぶ人生です。ですから、わたしにとっては「人生まるごと真剣な遊び」なのです。

生まれたのは偶然でも、人生を創っていくのはあなた自身です。

自分らしく生きなければ、あなた自身で人生を創るしかないのです。何故って、あなたの人生はあなたしか生きることが出来ないから。

でも、自分の人生を自分で創ることが出来るって何と素晴らしいことでしょう! さあ、あなたはどんな人生を創りますか。